

キャンパスを歩き、街を訪ねる。

世界でも類をみない、木質HPシェル構造をもつ弥生講堂アネックスを訪ね、遠く江戸にその源流をもつ老舗そば処増田屋直系の店を覗く。

農学の実験、木の多目的スペース

弥生講堂アネックス

扉を開けると、巨大な葉のように折り重なる曲面がいくつも側面から天井に伸び、淡い光のなか、木の香りが漂っている。まるで小人の森にいるようだ。

ここは弥生講堂アネックスの多目的ホール「セイホクギャラリー」。この木造建築はHPシェル(双曲放物面)と呼ばれる形状により構成されている。机と椅子は移動可能で、国際シンポジウムのほかレセプションやポスターセッションなど、さまざまな用途で利用されている。

さらに、奥の廊下を右に折れて「エンゼル研究棟」に向かうと、そこでは直線的に組まれた幾本もの柱が壁と天井を囲んでいる。これは一方向ラーメンと呼ばれる構造で、坑道のような趣のある不思議な空間となっている。じつは講義室だが、ミニシアターやカフェにもなりそうだ。

ギャラリーから二階にあがると、奥に演習室と呼ばれる部屋があった。「社会人向けの木造建築の研究をここでやっています」と教えてくれたのは木質材料科学研究室の安藤直人教授。



木造HPシェル構造のセイホクギャラリー



東京大学大学院農学生命科学研究科
生物材料科学専攻 木質材料科学研究室
農学博士
安藤直人教授(左)

東京大学非常勤講師
一級建築士事務所 河野泰治アトリエ
河野泰治氏(中央)

東京大学産学官連携研究員
一級建築士事務所 河野泰治アトリエ
鍋野友哉氏(右)

教授は、アネックス建設の企画立案から資金集めまで多方面に関わり、プロデューサーの役割を果たした。企画は2004年ごろから始まり、2005年に設計や敷地の話が具体化、竣工したのは昨年8月だ。

設計・監理は香山壽夫東京大学名誉教授のもとで建築設計の研鑽を積んだ河野泰治氏と安藤研究室卒業生の鍋野友哉氏が行った。



一方向ラーメン構造の講義室

「一般的な住宅建築に使われるスタンダードな材料や工法を使って木造のシェル構造を作り上げたかったのです」と河野氏は説明する。その構造設計は木質材料科学研究室の稲山正弘准教授が担当した。

「これは実験的な建物です」と安藤教授は話す。たとえば、柔らかい杉をあえて床に使用し、いままでにない踏み心地を演出した。「一応、完成ということになっていますが、私としてはまだまだやりたいことがある。その意味で、まだ建設途中です。これからもどんどん改良していきますよ。」サグラダ・ファミリアのようですね、と冗談めかして言うと、引き締まっていた教授の口もとがわずかにほころんだ。

利用に関するお問い合わせ

東京大学 弥生講堂事務室
〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内
電話 03-5841-8205 Fax 03-5841-5028
電子メール yayoi@ofc.a.u-tokyo.ac.jp